ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナとは

多くは夏に流行し、熱とのどの痛みが主症状のウイルス性感染症の一種です。のどの奥に小さな水疱ができて痛みます。
1～5歳でかかりやすく、1歳が最も多く年齢と共に減少していきます。

症状

急に38～40℃の高熱が出て2、3日続きます。
児童・生徒ではのどの痛みを訴えますが、乳幼児ではよだれが増える、食欲が落ちる、不機嫌などの症状で気づきます。のどを見ると、上あごの奥に小さな水疱ができ、それが潰れて潰瘍を作ることもあります。

治療

解熱剤やのどの痛みを抑える薬を処方します。のどの痛みのため水分摂取ができない時は、点滴で水分補給をすることもあります。
のどにできた水疱や潰瘍は、1週間ほどで自然に治ります。

家庭で気をつけること

・飲食　…口の中が痛い時は、のど越しのよい食べ物を与えます。塩分や酸味の強い飲食物はのどにしみるため、避けた方がよいです。
・入浴　…元気がない時以外は入浴してもよいです。

登園・登校について

熱が下がって口の中の痛みがなく、全身状態が良ければ登園・登校が可能です。

再診の目安

・口の中の痛みが強く、水分摂取ができない時。
・高熱が5日以上続く時。
・おしっこの量が減り、元気がなく、ぐったりしている時。

2024年10月
坂ノ市こどもクリニック